

第3章 調査結果

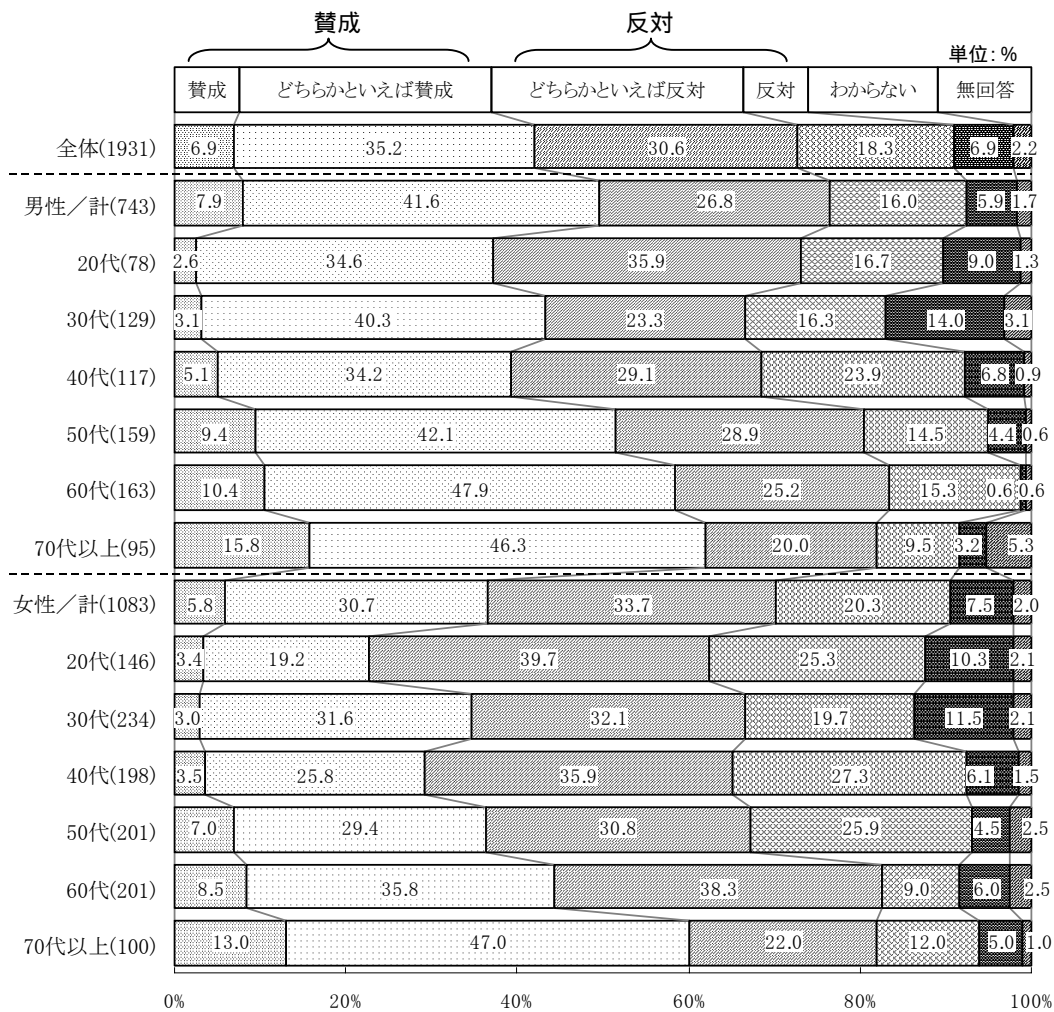
第3章 調査結果

男女平等に関する意識について

問1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。
(は1つ)

図表5 - 1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識



全体の傾向

「男は仕事、女は家庭」という考え方に、「反対」が48.9%（「反対」18.3%と「どちらかといえば反対」30.6%の合計）で、「賛成」が42.1%（「賛成」6.9%と「どちらかといえば賛成」35.2%の合計）となっており、「反対」が7ポイント上回っています（図表5 - 1）

男女別の傾向

男性では「賛成」(49.5%)が「反対」(42.8%)を7ポイント上回っているのに対して、女性では「反対」(54.0%)が「賛成」(36.5%)を18ポイント上回っています（図表5 - 1）

第3章 - 男女平等に関する意識について

男女別の年代別の傾向

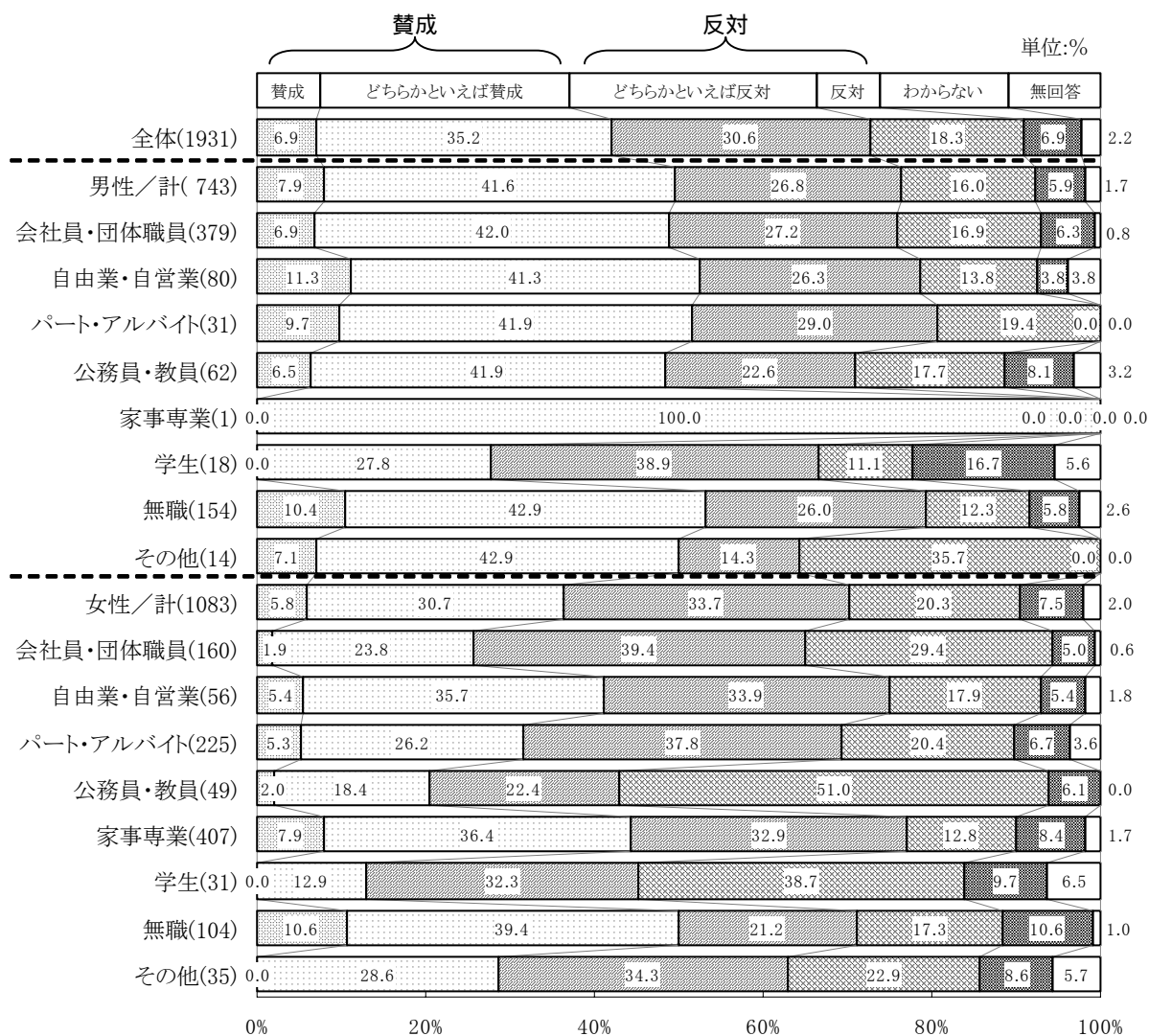
男性は50代以上で性別役割分担に「賛成」が50%を超えています。

女性は、性別役割分担に「賛成」が、40代で一旦落ち込むものの、ほぼ年齢に比例して割合が増え、70代以上では60%に達しています(図表5-1)。

男女別の職業別の傾向

女性のうち仕事を持つ人(「会社員・団体職員」、「自由業・自営業」、「パート・アルバイト」、「公務員・教員」)は、性別役割分担に「反対」が50%以上となっており、仕事を持たない女性(「家事専業」、「無職」)や男性に比べて、反対の割合が高い傾向がみられます(図表5-2)。

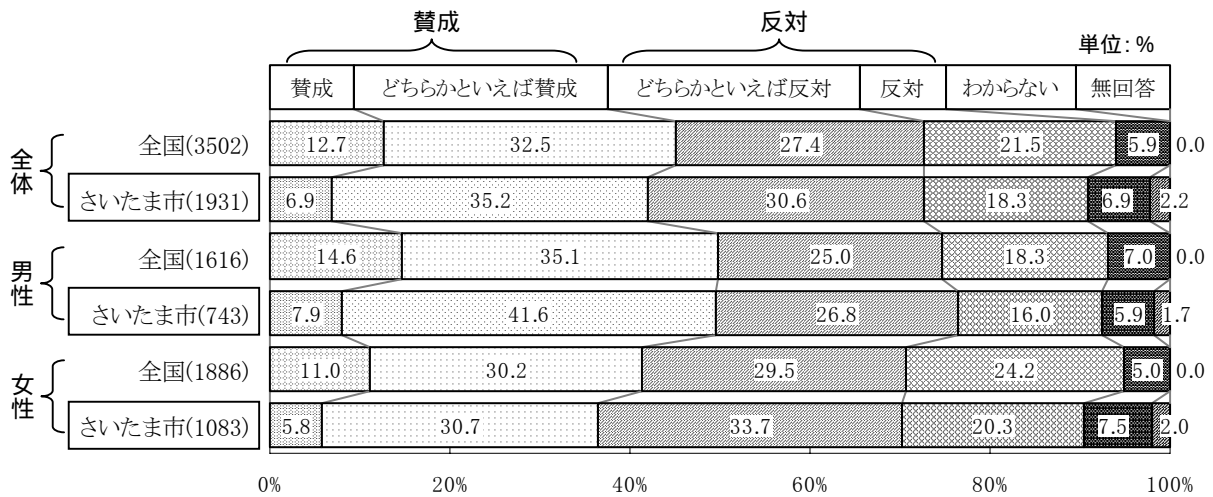
図表5-2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識(職業別)



< 全国調査との比較 >

全国調査（H16.11）では、「反対」48.9%が「賛成」45.2%をわずかに上回っています。男女別にみると、全国と同様さいたま市では、男性は「賛成」が上回っており、女性は「反対」が上回っています。男女の役割分担について、さいたま市では全国の女性より「反対」がやや多い傾向がみられます（図表5-3）。

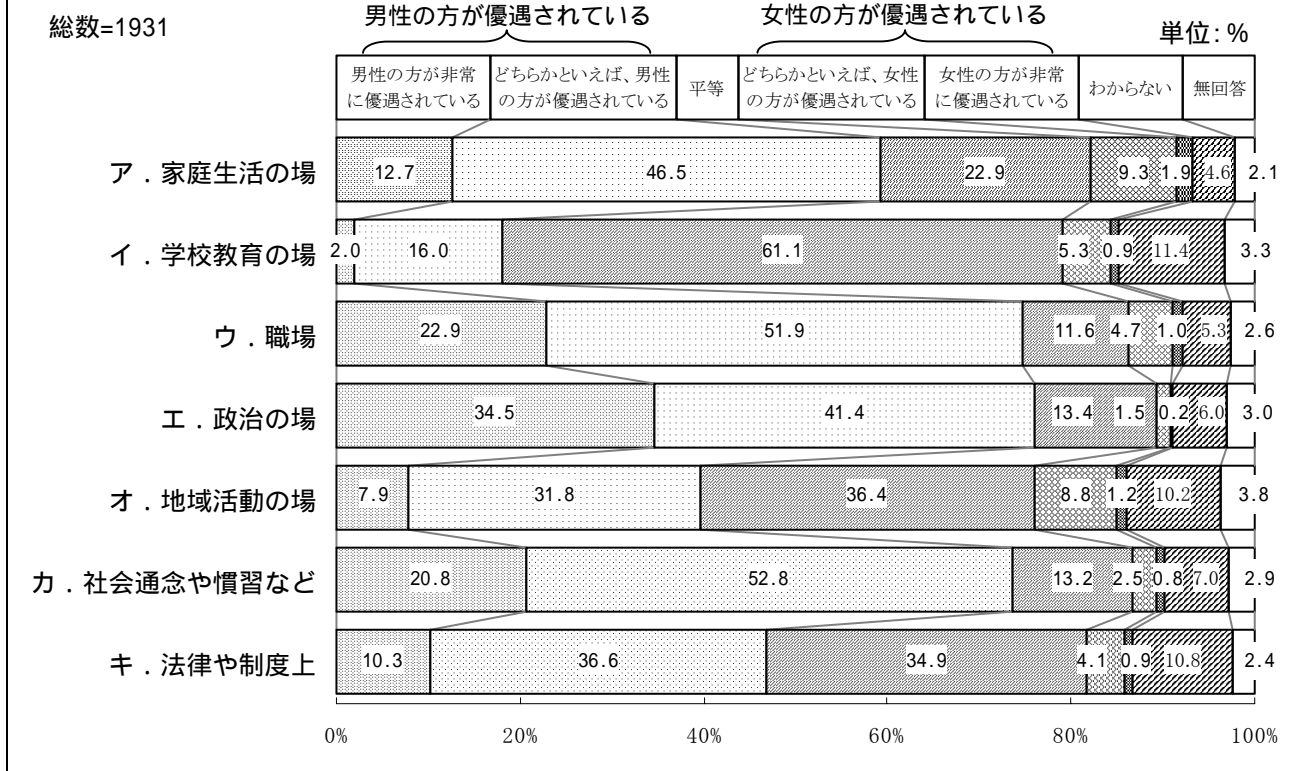
図表5-3 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識（全国調査との比較）



問2 各分野における男女の地位の平等感

問2 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれについて、あてはまるものに を1つ)

図表6-1 各分野における男女の地位の平等感



全体傾向

「学校教育の場」では、「平等」が61.1%で、他の項目に比べて群を抜いて平等であるという意識が高くなっています。次いで、「地域活動の場」(36.4%)や「法律や制度上」(34.9%)で平等であるとの意識が多くみられます。

一方、「男性の方が優遇されている」(「男性の方が非常に優遇」と「どちらかといえば、男性の方が優遇」の合計)という認識が高い分野は、「政治の場」(75.9%)、「職場」(74.8%)、「社会通念や慣習」(73.6%)で、いずれも70%を超える高い割合となっています(図表6-1)。

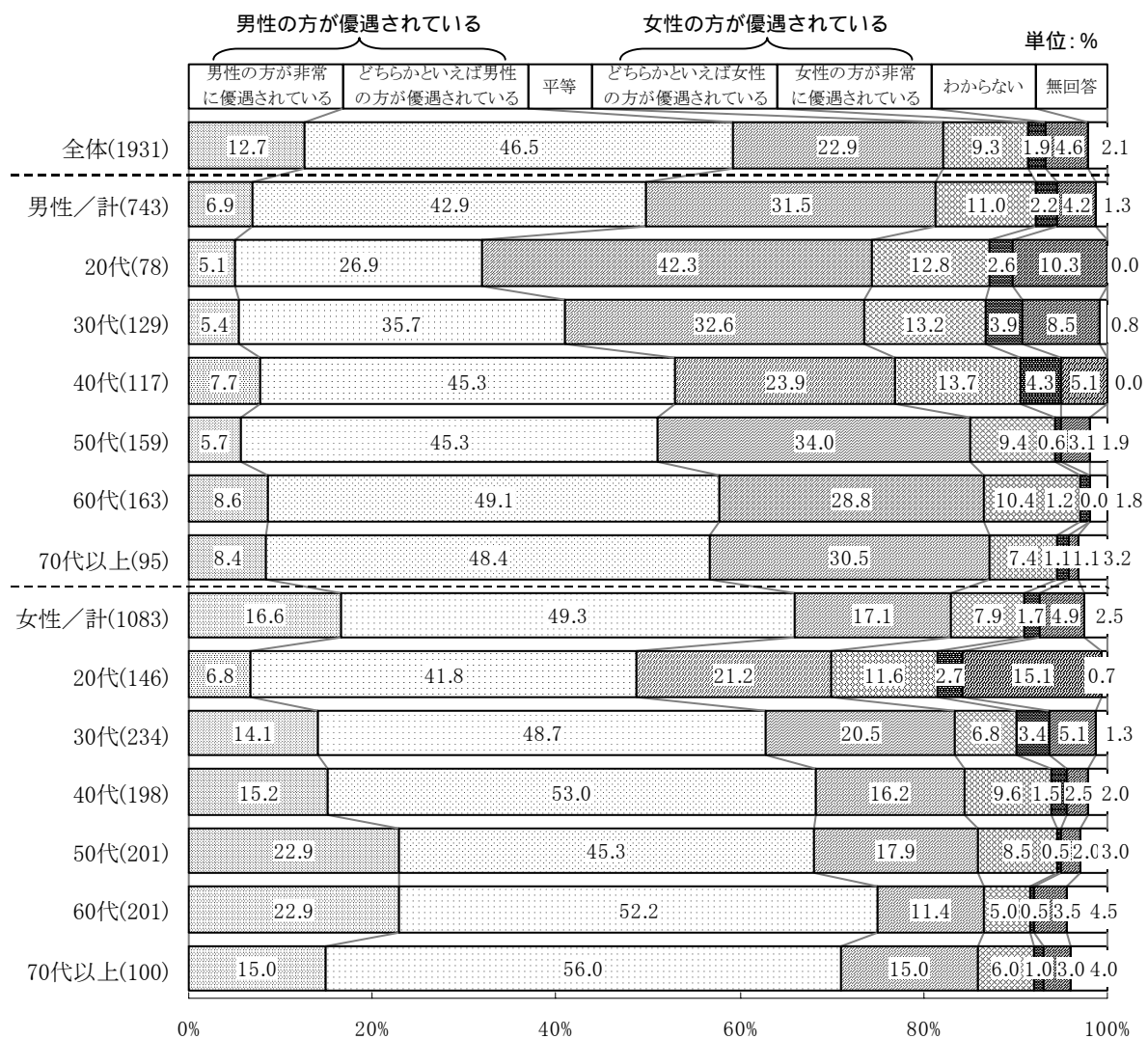
ア．各分野における男女の地位の平等感「家庭生活の場」

全体では、家庭生活の場で「男性の方が優遇されている」という回答が、半数以上（59.2%）を占めています。

男女別にみると、「男性の方が優遇されている」と答える男性は49.8%、女性は65.9%で、女性が16ポイント上回っています。一方で、「平等」と答える男性は31.5%、女性は17.1%で、男性が14ポイント上回っています。

男女別の年代別にみると、男女ともに年齢が高いほど、「男性の方が優遇されている」と考える割合が多くなっています（図表6-2）。

図表6-2 各分野における男女の地位の平等感「家庭生活の場」



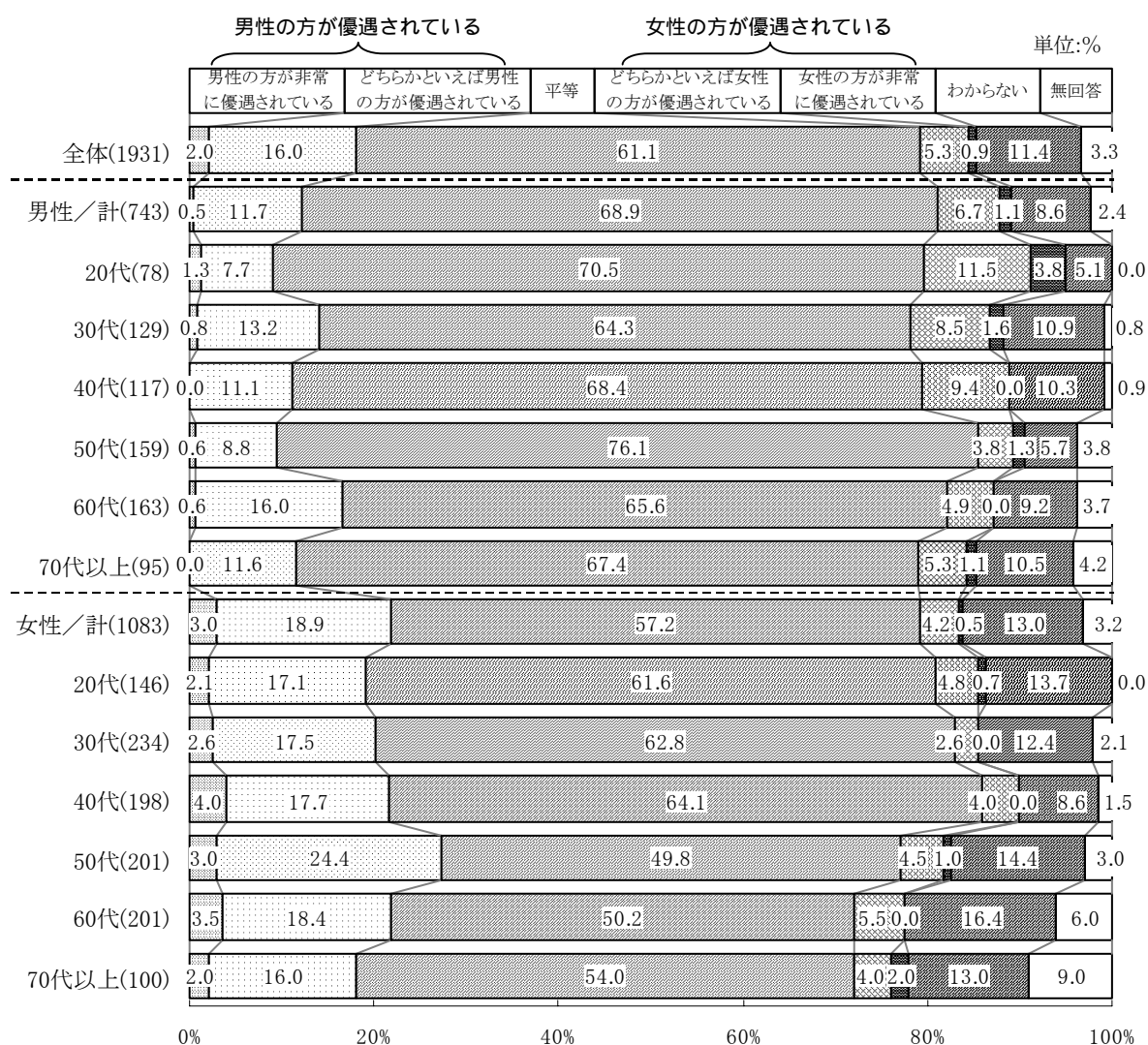
イ．各分野における男女の地位の平等感「学校教育の場」

全体では、学校教育の場について男女が「平等」であるとの回答が61.1%を占めています。他の分野に比べて、学校教育の場は、男女が平等であるという意識が最も高くなっています。

男女別にみると、「平等」と答える男性は68.9%、女性は57.2%で、男性が12ポイント上回っています。また、「男性の方が優遇されている」との回答は、男性が12.2%、女性が21.9%で、女性が10ポイント上回っており、男女の意識の違いがみられます。

男女別の年代別にみると、女性の50代では、学校教育の場で「男性の方が優遇されている」との認識が他の年代より高く、男女ともに若い年代ほど、平等であるとの意識が高い傾向がみられます（図表6-3）。

図表6-3 各分野における男女の地位の平等感「学校教育の場」



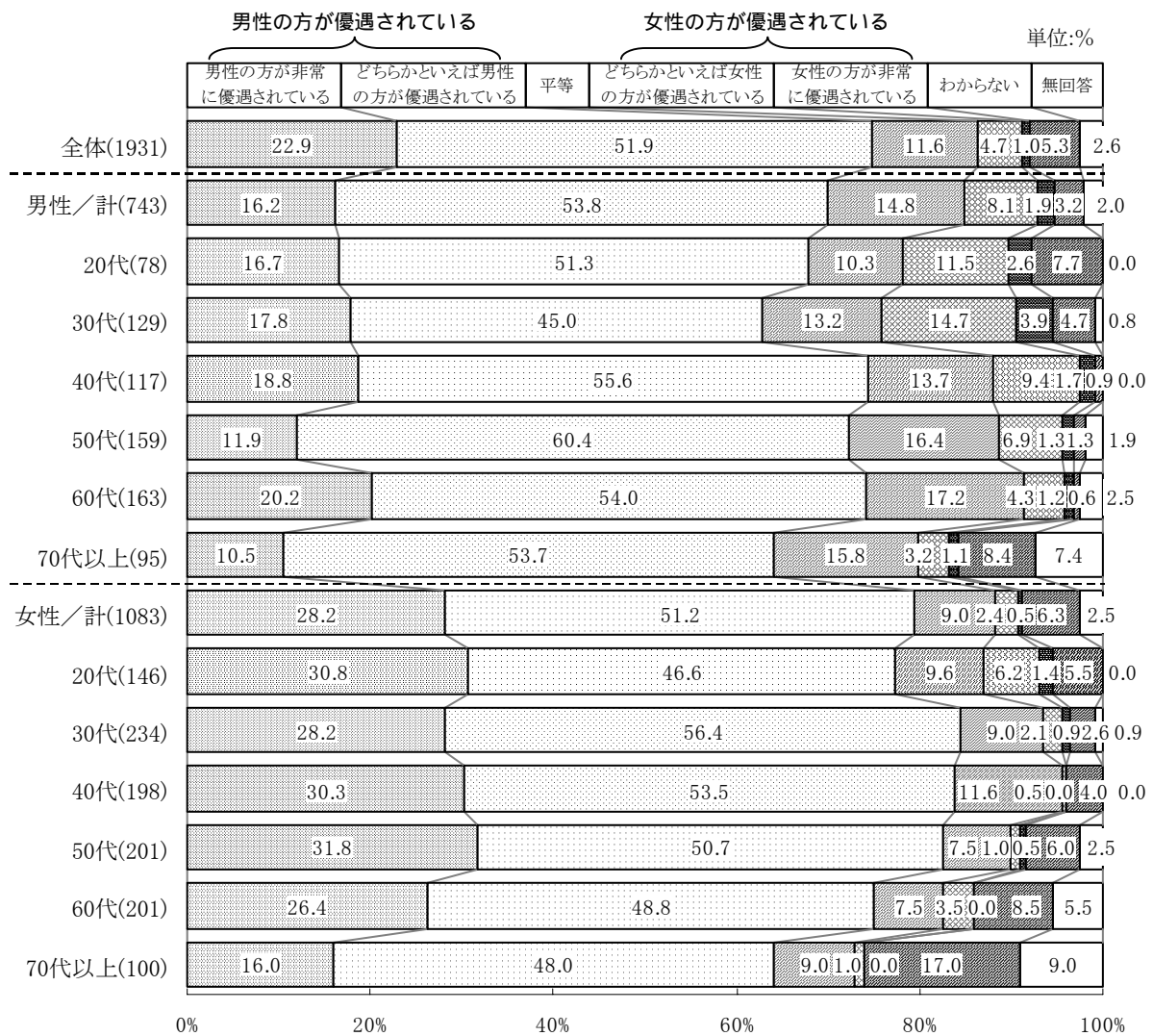
ウ．各分野における男女の地位の平等感「職場」

全体では、職場において「男性の方が優遇されている」との回答が74.8%となっており、「政治の場」の次に男性優遇の意識が高い割合を占めています。

男女別にみると、「男性の方が優遇されている」との回答は、男性が70.0%、女性が79.4%で、女性の方が9ポイント上回っています。

男女別の年代別にみると、女性は30代～50代では、職場で「男性の方が優遇されている」との回答が80%以上に達しています（図表6-4）。

図表6-4 各分野における男女の地位の平等感「職場」



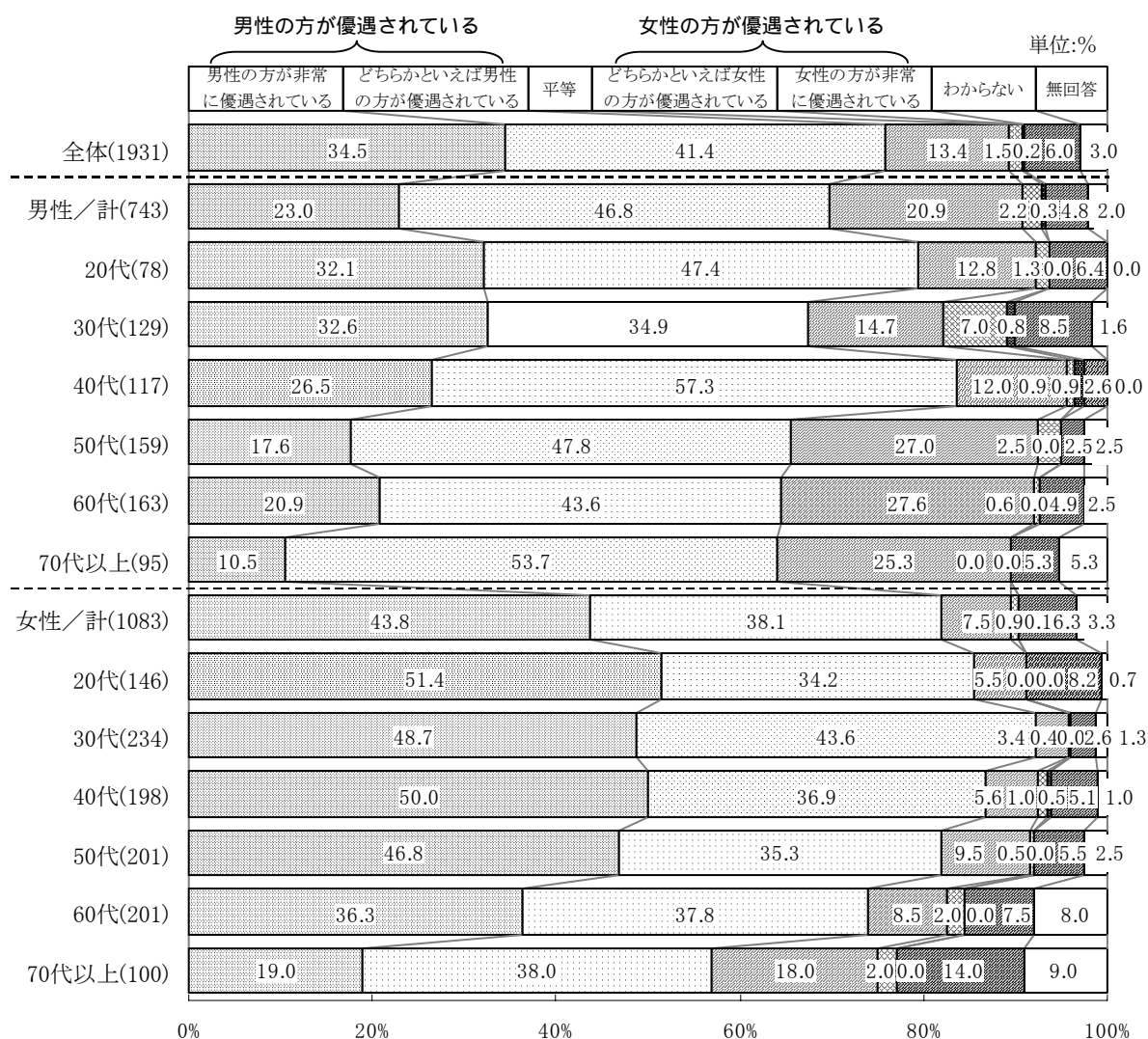
エ．各分野における男女の地位の平等感「政治の場」

全体では、政治の場において「男性の方が優遇されている」との回答が75.9%になっています。他の分野と比べると、男性優遇の意識が最も高い割合となっています。

男女別にみると、「男性の方が優遇されている」との回答は、男性が69.8%、女性が81.9%で、女性の方が12ポイント上回っています。

男女別の年代別にみると、男女とも20代～40代の若い世代ほど「男性の方が優遇されている」との割合が高くなっています（図表6-5）。

図表6-5 各分野における男女の地位の平等感「政治の場」



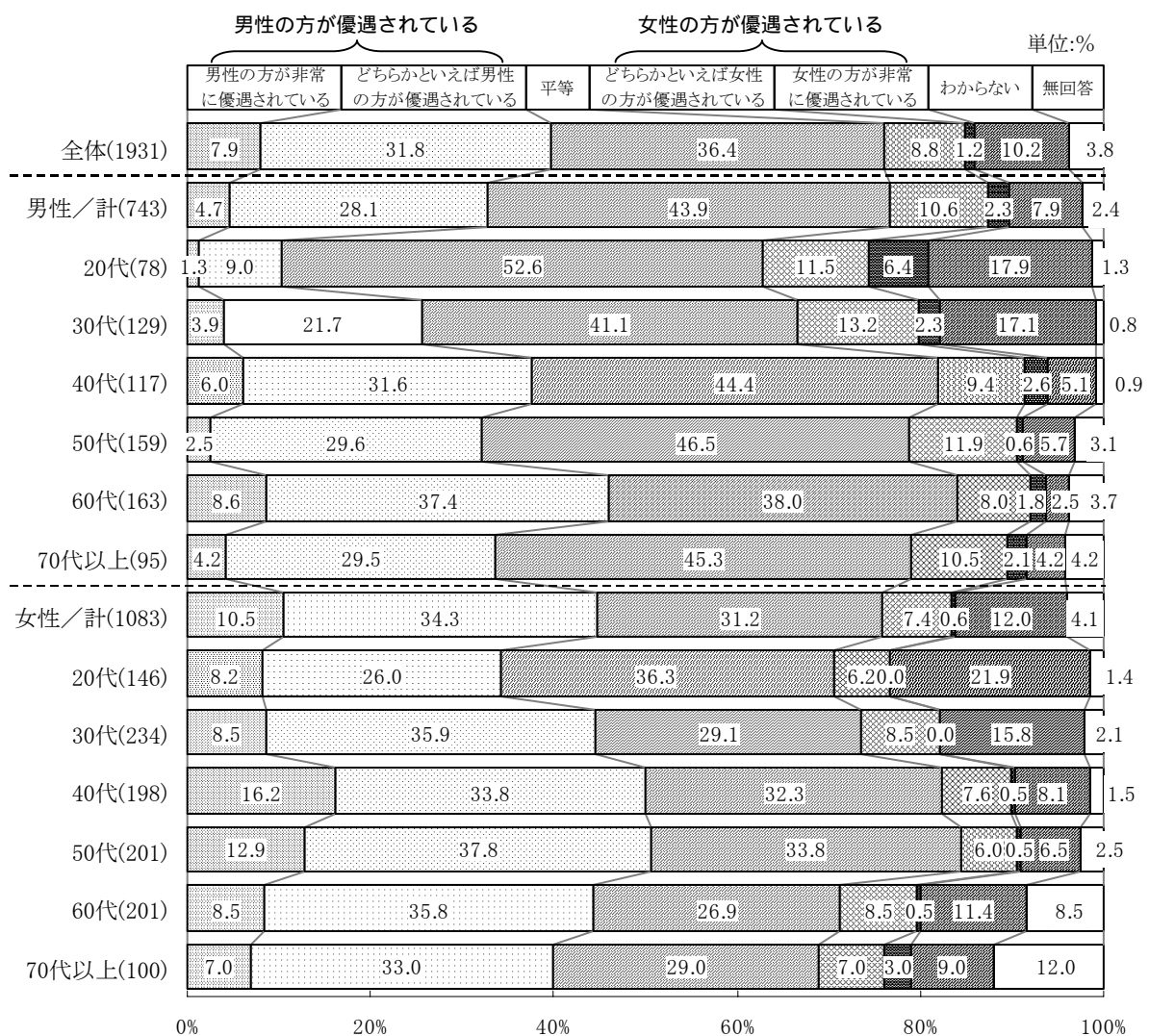
オ．各分野における男女の地位の平等感「地域活動の場」

全体では、地域活動の場において、男女は「平等」とする回答が36.4%となっており、「学校教育の場」に次いで、男女平等との意識が高い分野であると考えられています。

男女別にみると、「平等」と答える男性は43.9%、女性は31.2%で、男性が13ポイント上回っています。また、「男性の方が優遇されている」との回答は、男性が32.8%、女性が44.8%で、女性が12ポイント上回っています。

男女別の年代別にみると、実際に地域活動に参加したことがあると考えられる30代以上の女性（今回調査：問7結果参照）では、地域活動の場で「男性の方が優遇されている」が40%以上で高い割合となっています（図表6-6）。

図表6-6 各分野における男女の地位の平等感「地域活動の場」



第3章 - 男女平等に関する意識について

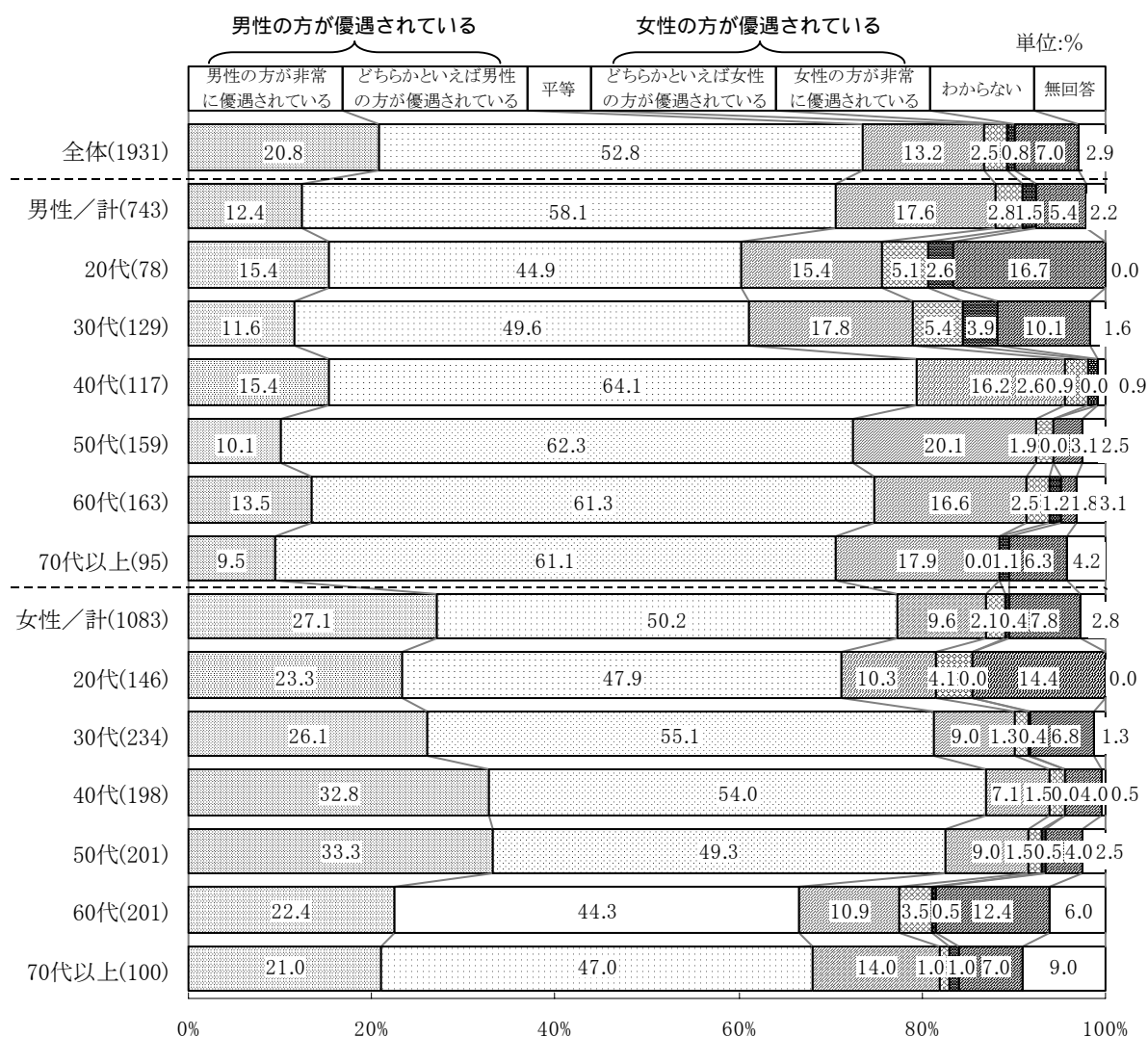
カ．各分野における男女の地位の平等感「社会通念や慣習など」

全体では、社会通念や慣習などで、「男性の方が優遇されている」との回答は73.6%となっており、「政治の場」や「職場」に次いで3番目に男性優遇の意識が高い割合を占めています。

男女別にみると、「男性の方が優遇されている」と答える男性が70.5%、女性が77.3%で、女性が7ポイント上回っています。一方で、「平等」と答える男性は17.6%、女性は9.6%で、男性が8ポイント上回っています。

男女別の年代別にみると、女性の30代～50代では、社会通念や慣習などで、「男性の方が優遇されている」が80%以上で高い割合となっています（図表6-7）

図表6-7 各分野における男女の地位の平等感「社会通念や慣習など」



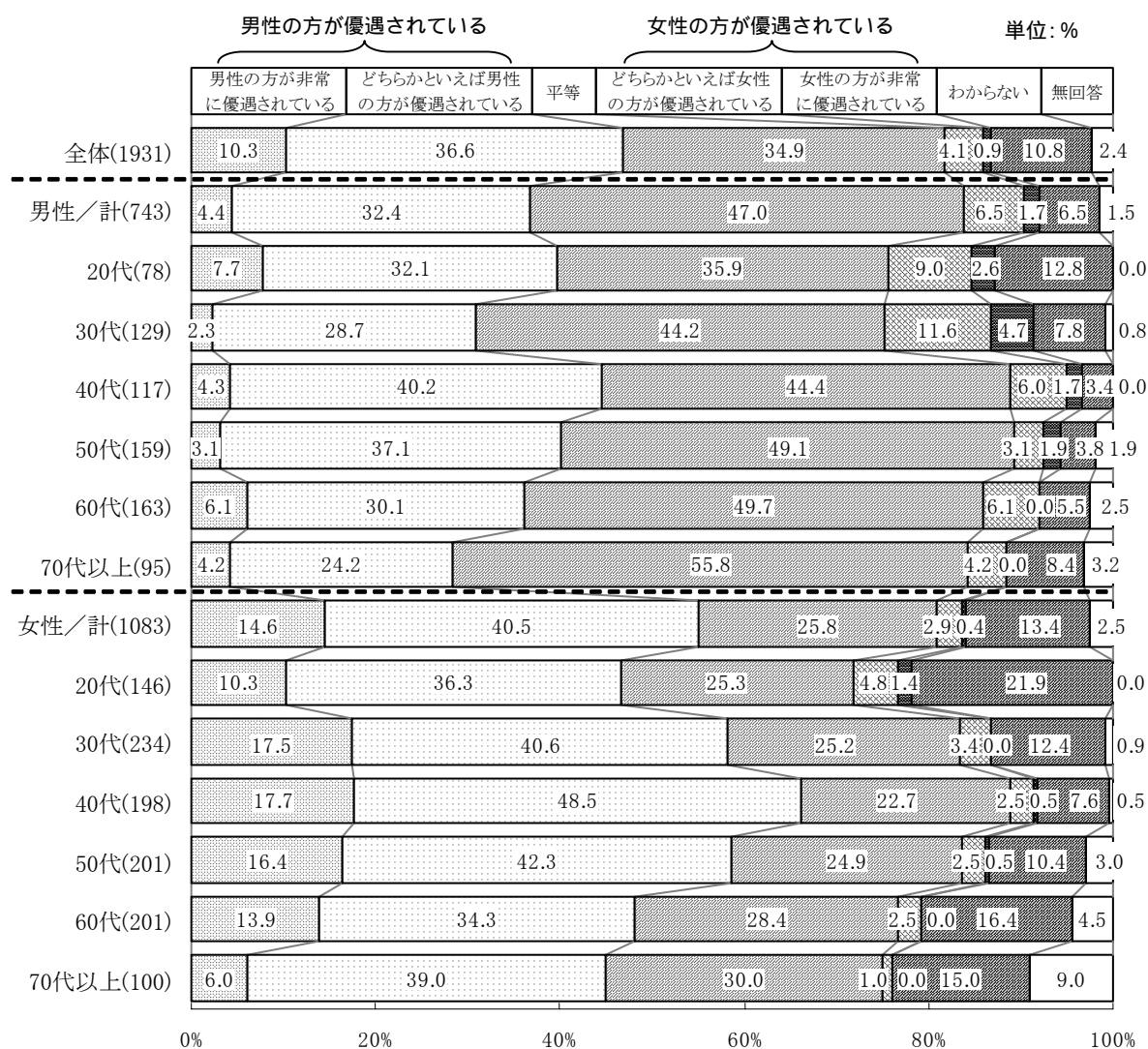
キ．各分野における男女の地位の平等感「法律や制度上」

全体では、法律や制度上において、男女は「平等」であるとの回答が34.9%で、「学校教育」、「社会通念や慣習など」に次いで男女が平等であるとの意識が高い割合となっています。

男女別にみると、「平等」と答える男性は47.0%、女性は25.8%で、男性が21ポイント上回っています。また、「男性の方が優遇されている」との回答は、男性が36.8%、女性が55.1%で、女性が18ポイント高くなっており、男女の意識の違いがみられます。

男女別の年代別にみると、女性の30代～50代では、法律や制度上で「男性の方が優遇されている」が60%前後で高い割合となっています（図表6-8）。

図表6-8 各分野における男女の地位の平等感「法律や制度上」

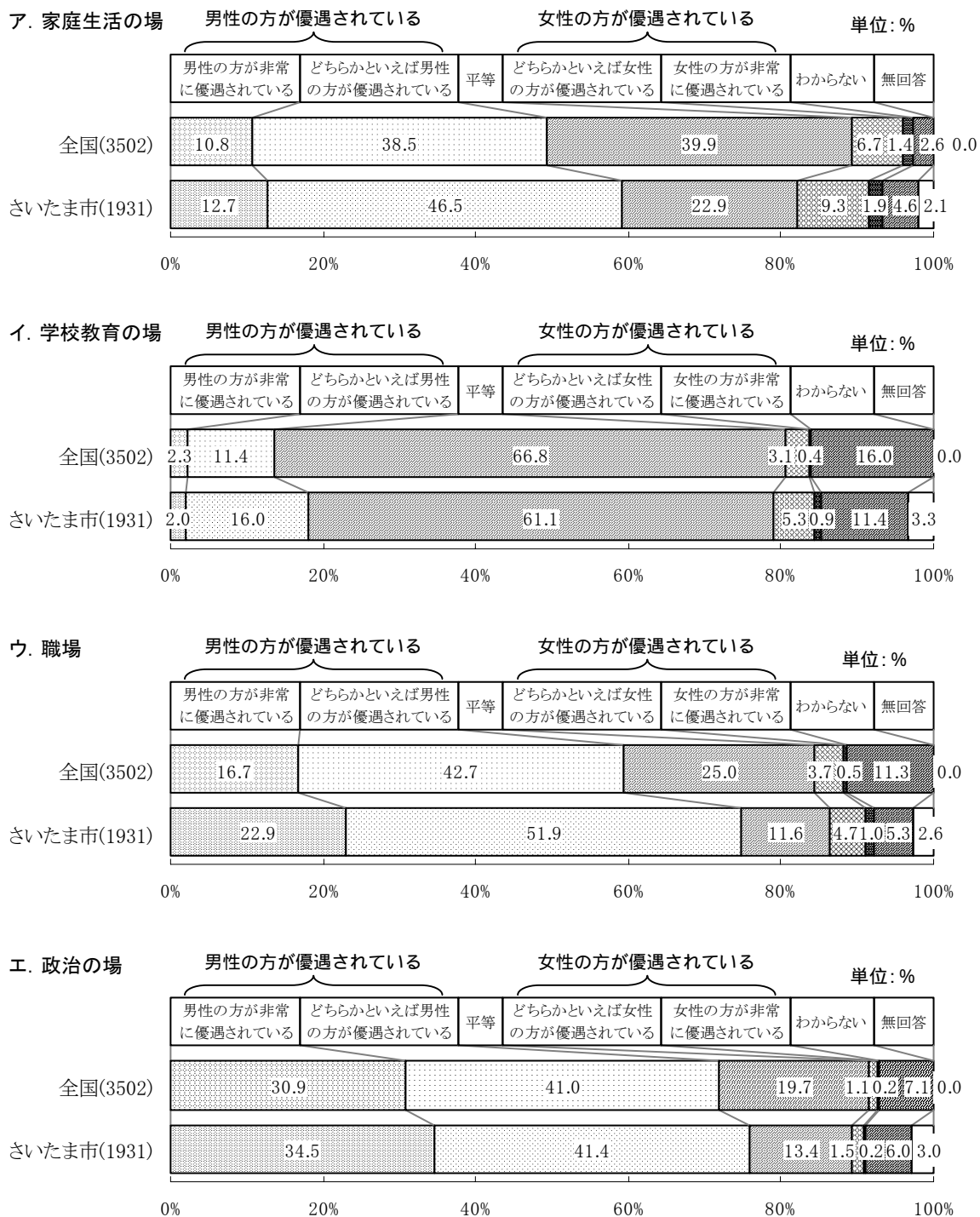


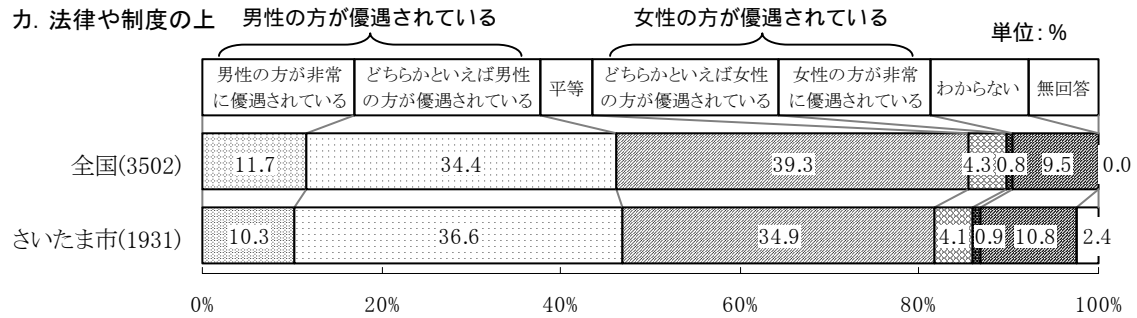
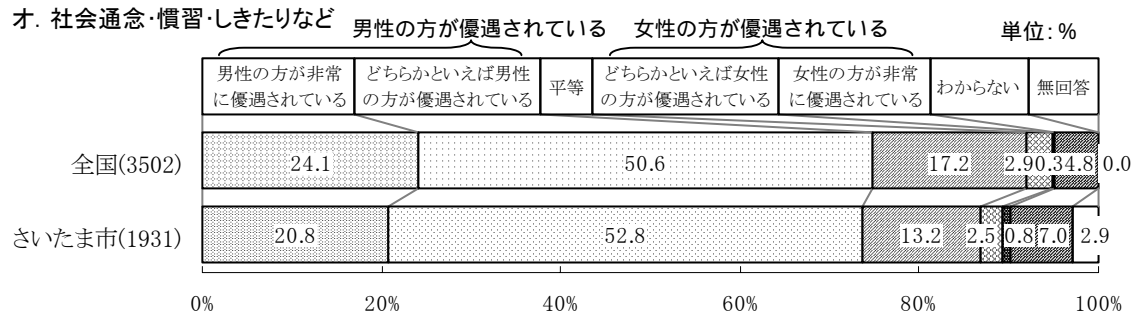
第3章 - 男女平等に関する意識について

< 全国調査との比較 >

全国調査（H16.11）と比べると、さいたま市では、「職場」において「男性の方が優遇されている」（全国：59.4%）という意識が全国より15ポイント上回っています。全国調査では、「男性が優遇されている」という認識が高いのは、「社会通念や慣習」（74.7%）、「政治の場」（71.9%）、「職場」（59.4%）となっています（図表6-9）。

図表6-9 各分野における男女の地位の平等感（全国調査との比較）





〔注〕全国調査では「地域活動の場」の設問項目なし

問3 男女共同参画に関する言葉の認知度

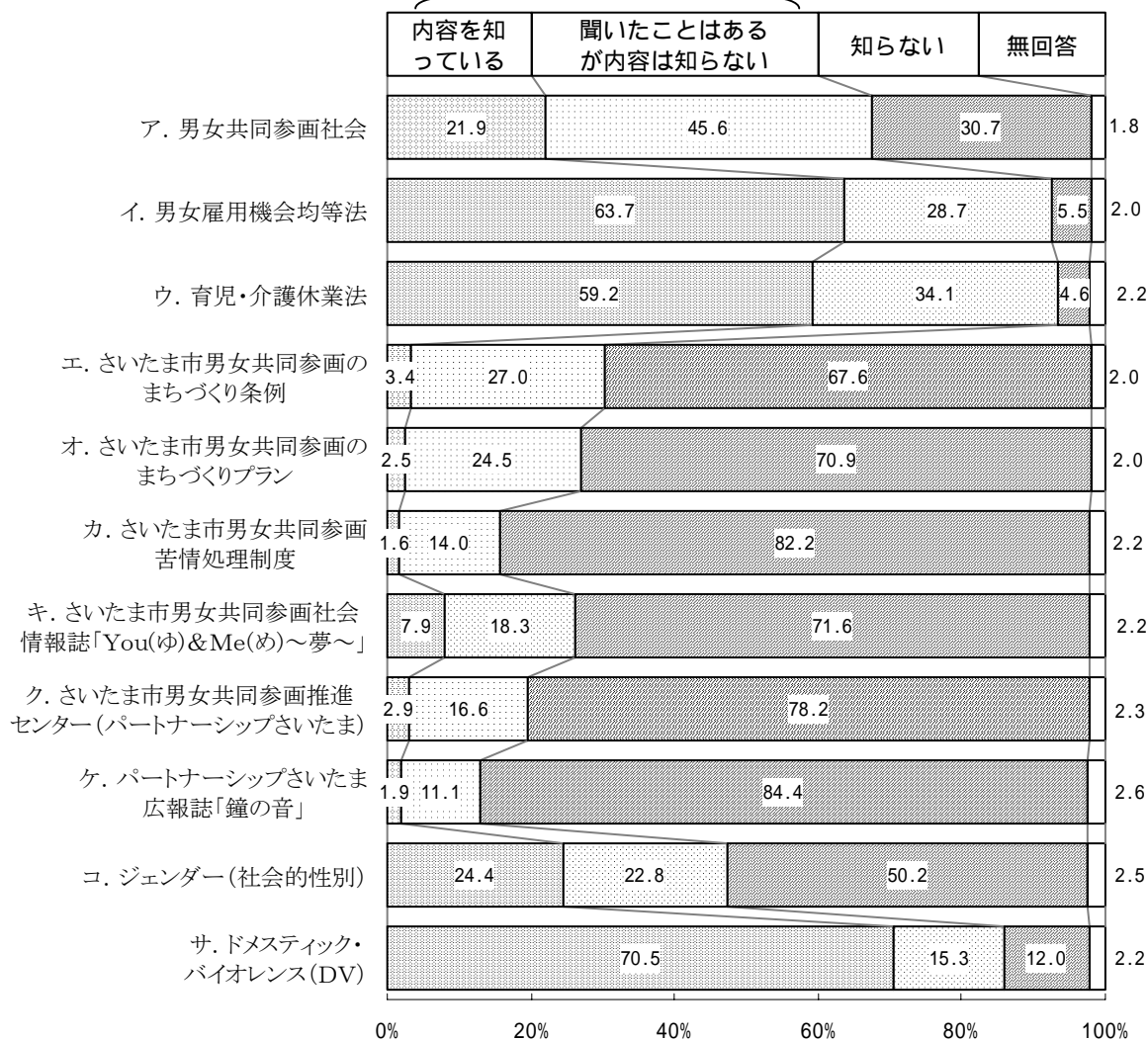
問3 あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
(それぞれについて、あてはまるものに を1つ)

図表7-1 男女共同参画に関する言葉の認知度

総数=1931

聞いたことがある

単位:%



全体傾向

設問に挙げた項目のうち、「聞いたことがある」(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計)が多かったものは「育児・介護休業法」(93.3%)、「男女雇用機会均等法」(92.4%)で、ほとんどの回答者が「聞いたことがある」と答えています。さらに、このうちそれぞれ、「内容を知っている」との回答が60%前後を占めています。

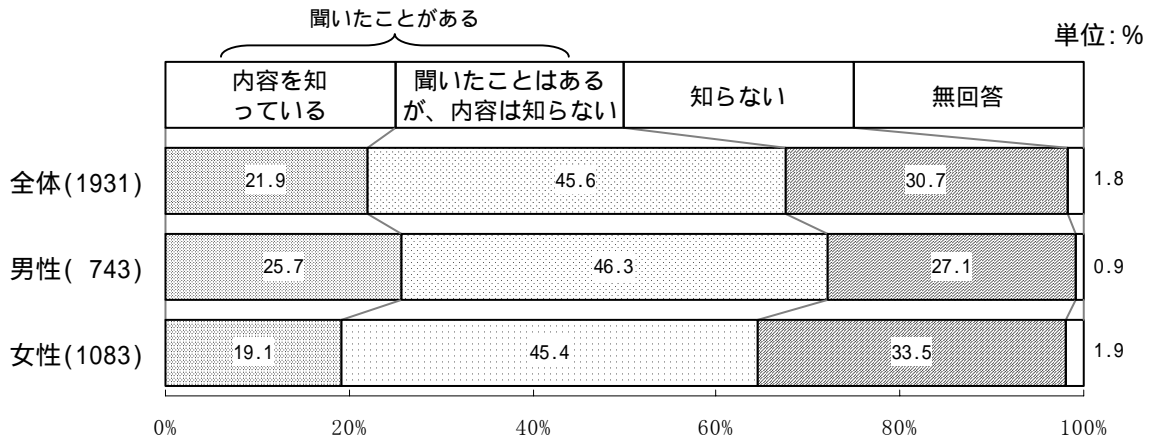
同様に、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」については、70%以上が「内容を知っている」と答えています。

一方で、「さいたま市男女共同参画苦情処理制度」や「パートナーシップさいたま広報誌 鐘の音」、「さいたま市男女共同参画推進センター」については、「聞いたことがある」が20%を下回っています(図表7-1)。

ア．男女共同参画に関する言葉の認知度「男女共同参画社会」

男女ともに男女共同参画社会という言葉、「聞いたことがある」が60%を超えており、言葉自体の周知は進んでいるようです（図表7 - 2）。

図表7 - 2 男女共同参画に関する言葉の認知度「男女共同参画社会」

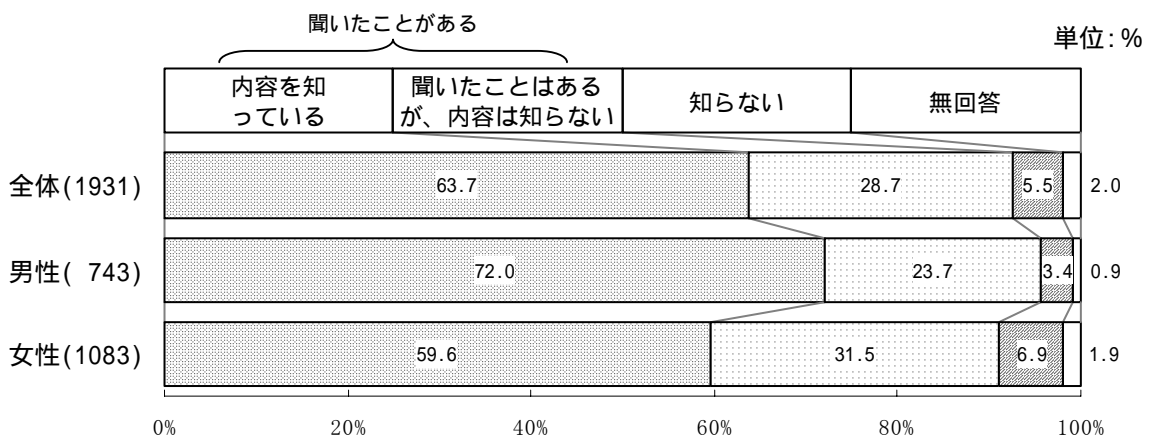


イ．男女共同参画に関する言葉の認知度「男女雇用機会均等法」

全体では、男女雇用機会均等法について、「聞いたことがある」が90%を超え、このうち「内容を知っている」が60%を上回っています。他の項目と比べて、「育児・介護休業法」に次いで周知度が高くなっています。

男女別にみると、男性の方が「内容を知っている」が12ポイント上回っています（図表7 - 3）。

図表7 - 3 男女共同参画に関する言葉の認知度「男女雇用機会均等法」

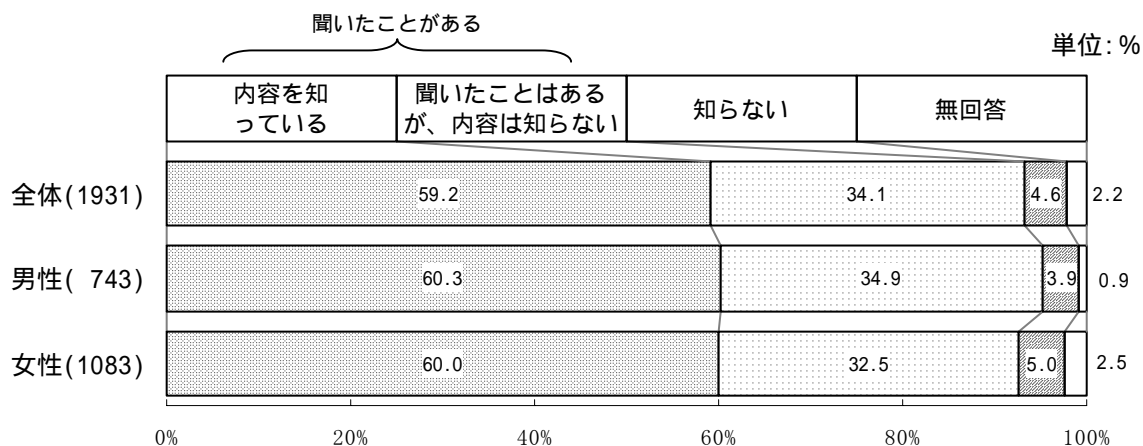


第3章 - 男女平等に関する意識について

ウ．男女共同参画に関する言葉の認知度「育児・介護休業法」

男女ともに育児・介護休業法について、「聞いたことがある」が90%を超え、このうち「内容を知っている」が60%前後となっています（図表7-4）。

図表7-4 男女共同参画に関する言葉の認知度「育児・介護休業法」

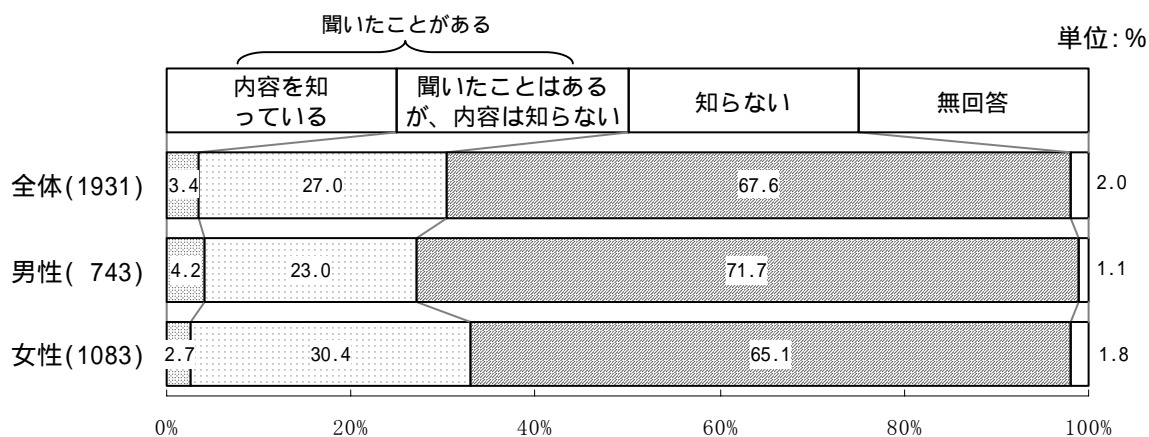


エ．男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」

全体では、さいたま市男女共同参画のまちづくり条例について、「知らない」が60%を超えています。

男女別にみると、女性の方が、「聞いたことがある」との回答が男性を6ポイント上回っています（図表7-5）。

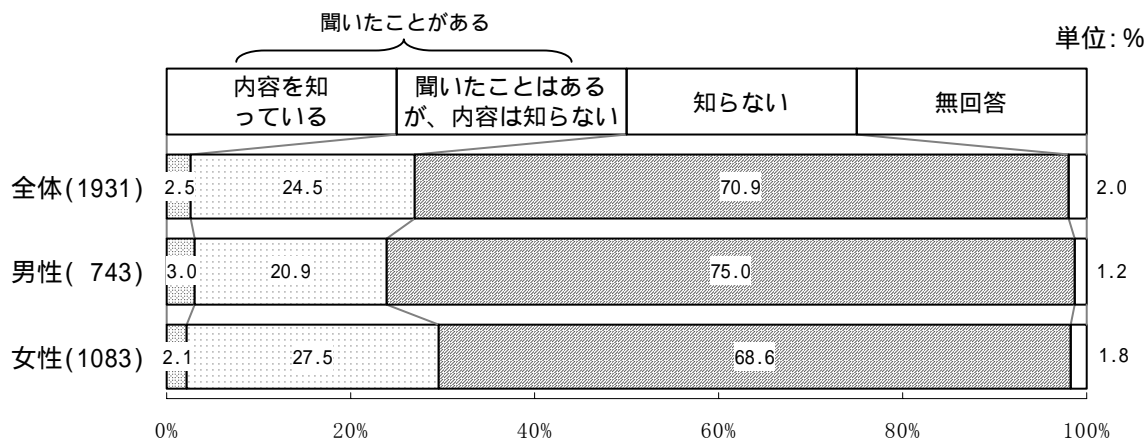
図表7-5 男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」



オ．男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」
 全体では、さいたま市男女共同参画のまちづくりプランについて、「知らない」との回答が70%を占めています。

男女別にみると、女性の方が、「聞いたことがある」との回答が男性より6ポイント上回っています（図表7 - 6）。

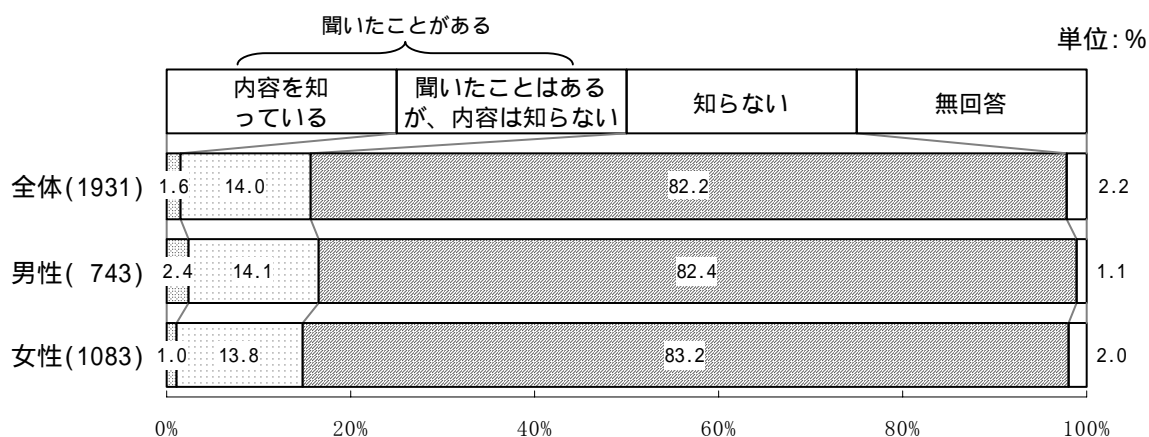
図表7 - 6 男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」



カ．男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画苦情処理制度」

男女ともさいたま市男女共同参画苦情処理制度を「知らない」との回答が80%を超えています（図表7 - 7）。

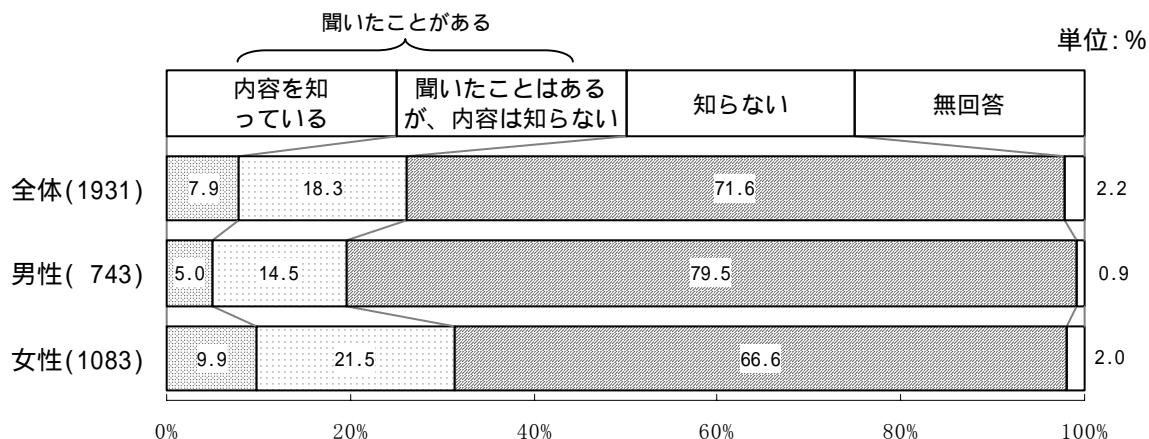
図表7 - 7 男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画苦情処理制度」



キ．男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画社会情報誌“ You & Me ~ 夢 ~ ”」

さいたま市が発行する「情報誌 You & Me ~ 夢 ~ 」について、「知らない」との回答は男性が79.5%、女性が66.6%で、男性の方が13ポイント上回っています（図表7 - 8 ）。

図表7 - 8 男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画社会情報誌“ You & Me ~ 夢 ~ ”」

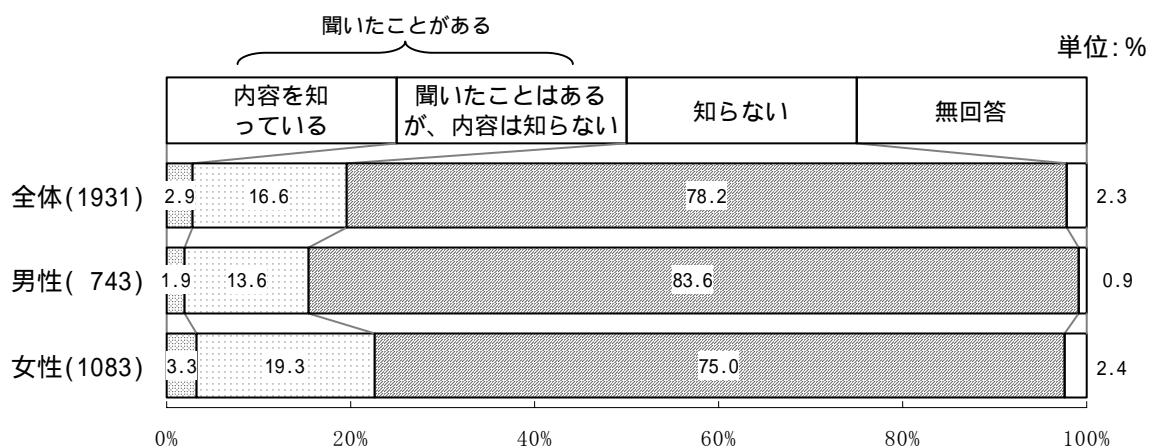


ク．男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画推進センター」(パートナーシップさいたま)

全体では、さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま）という施設を、「知らない」との回答が78.2%を占めています。

男女別にみると、「知らない」との回答は、男性が83.6%、女性が75.0%で、男性の方が9ポイント上回っています（図表7 - 9 ）。

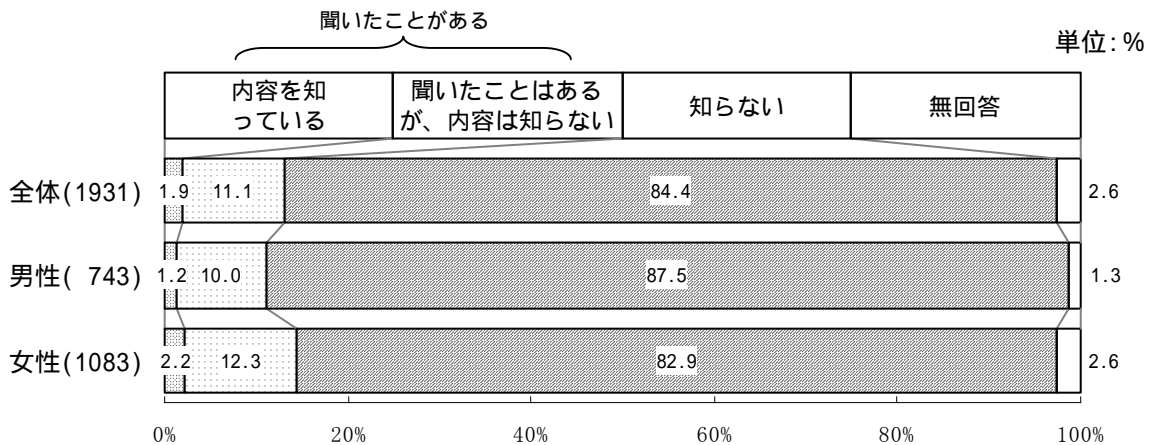
図表7 - 9 男女共同参画に関する言葉の認知度「さいたま市男女共同参画推進センター」



ケ．男女共同参画に関する言葉の認知度「パートナーシップさいたま広報誌“鐘の音”」
 パートナーシップさいたま（さいたま市男女共同参画推進センター）発行の広報誌「鐘の音」について、全体では「知らない」との回答が84.4%を占めています。

男女別にみると、「知らない」との回答は、男性が87.5%、女性が82.9%で、男性が5ポイント上回っています（図表7-10）。

図表7-10 男女共同参画に関する言葉の認知度「パートナーシップさいたま広報誌“鐘の音”」

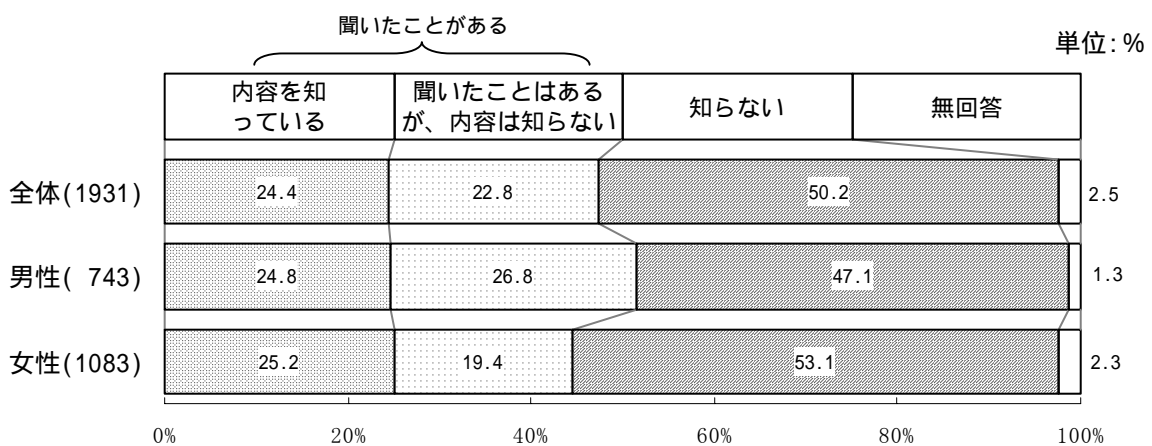


コ．男女共同参画に関する言葉の認知度「ジェンダー（社会的性別）」

全体では、ジェンダー（社会的性別）という用語を、「知らない」（50.2%）が「聞いたことがある」（47.2%）を3ポイント上回っています。

男女別にみると、「聞いたことがある」は男性が51.6%、女性が44.6%で、男性の方が7ポイント上回っています（図表7-11）。

図表7-11 男女共同参画に関する言葉の認知度「ジェンダー（社会的性別）」



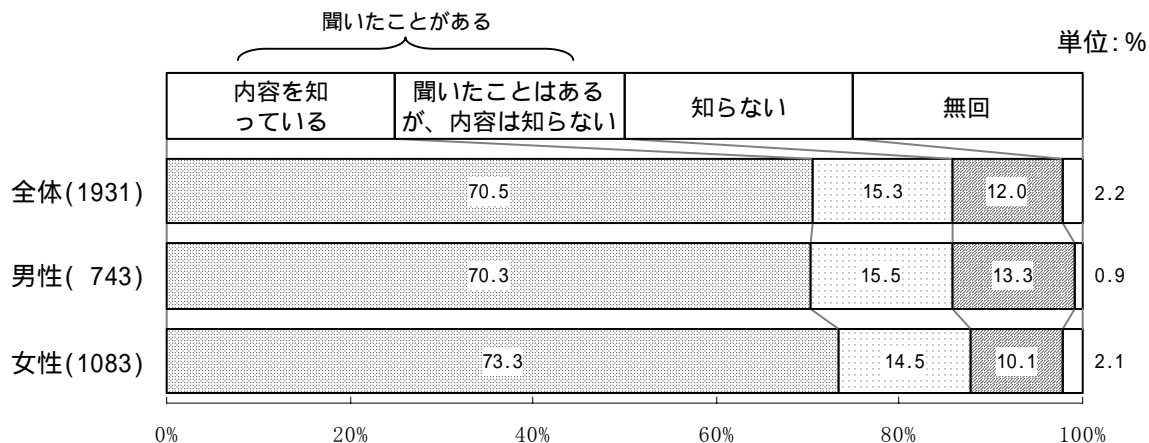
第3章 - 男女平等に関する意識について

サ．男女共同参画に関する言葉の認知度「ドメスティック・バイオレンス（DV）」

全体では、ドメスティック・バイオレンス（DV）という用語について、「内容を知っている」との回答が男女ともに70%を超えています。

男女ともに「聞いたことがある」との回答は85%を超えています（図表7 - 12）。

図表7 - 12 男女共同参画に関する言葉の認知度「ドメスティック・バイオレンス（DV）」

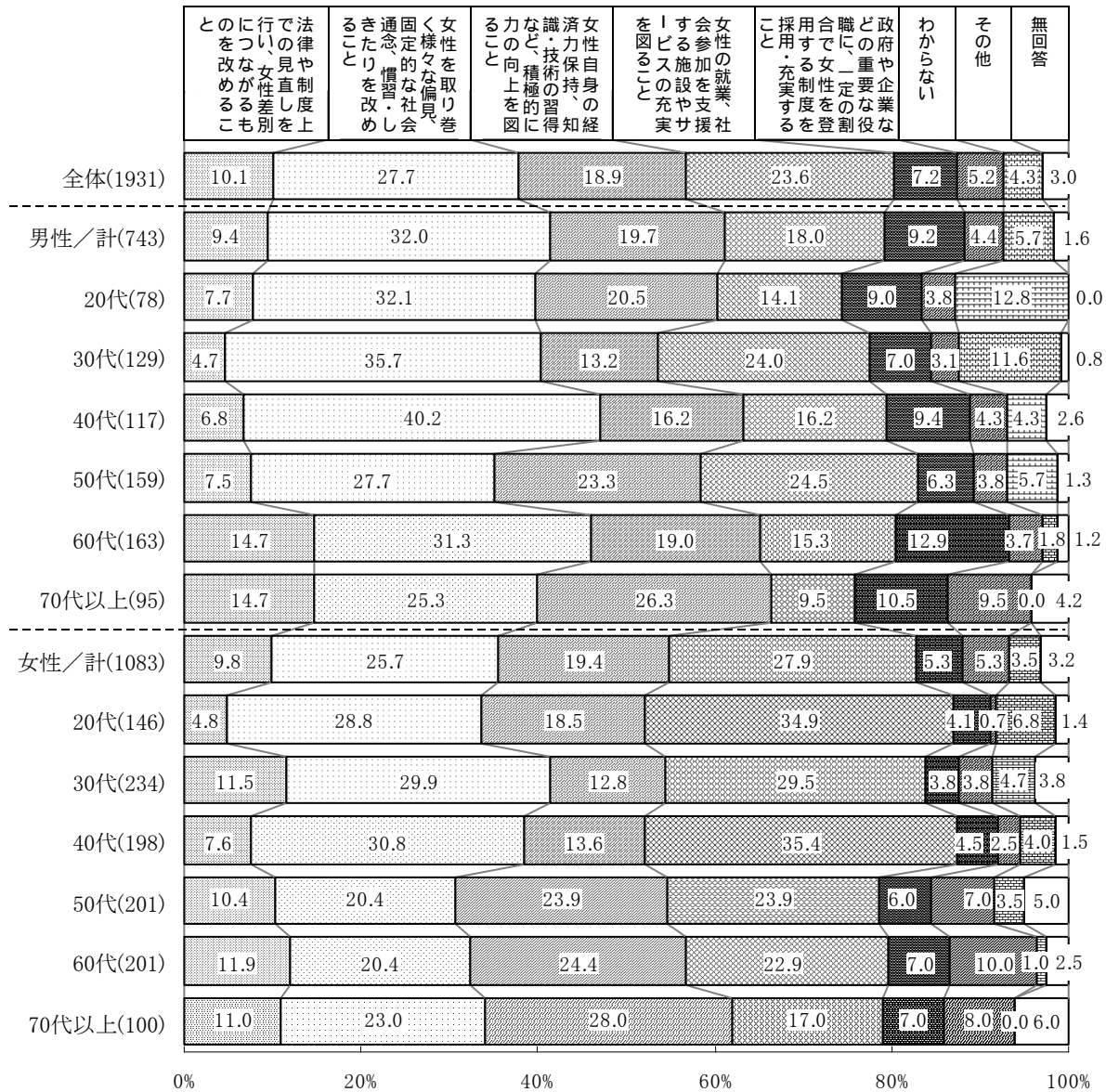


問4 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと

問4 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。(は1つ)

図表8-1 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと

単位：%



全体傾向

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要であることとして、最も多く挙げられたものは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(27.7%)で、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(23.6%)となっており(図表8-1)。

第3章 - 男女平等に関する意識について

男女別の傾向

女性の回答が最も多かったものは、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」で27.9%となっているのに対し、男性では同項目を挙げる割合は18.0%にとどまっており、女性の方が10ポイント上回っています。

一方、男性の回答が最も多かったものは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」で32.0%を占めているのに対し、女性では同項目を挙げる割合は25.7%で男性が6ポイント上回っています（図表8-1）。

男女別の年代別の傾向

女性の20代～40代では、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が30%前後となっています（図表8-1）。

< 全国調査との比較 >

全国調査（H16.11）と比べると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」（全国：14.6%）を重要と考える割合が、9ポイント上回っています（図表8-2）。

図表8-2 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと（全国調査との比較）

